



世界初！ 木造の風力発電装置



北ドイツのハノーファーで2012年12月、世界で初めて木造の支柱による風力発電装置が稼動を始めた。序幕式にはアルトマイヤー環境大臣やマックアリストア州知事も参加。木材という自然資源を使った設備で、再生可能エネルギーを生み出すことに大きな賞賛を与えた。

この風力発電装置は、ハノーファー出身の二人が起業したティンバータワー社によるもの。高さ100メートル。1.5キロメガワットの容量を誇り、1000世帯分の電力をまかなえる計算となる。州立ハノーファー大学の敷地に建設した。トウヒや白松の板を接着し、表面を特別ビニールで覆っている。支柱の重さは約192トンで、400立方メートルの木材を使用したことになる。40年持つといわれている。

木は自然資源であり、環境負荷が少ない。値上がりの激しい鉄鋼と違って材料費は安定しており、地元の木材を使えることから地域復興の役割も果たす。いずれ寿命がくれば、支柱は解体され、木材はリサイクルして再利用できる。木造支柱はいずれ、鉄鋼よりもコストが1.2割削減になるという。

このプロジェクトには、過去5年に550万ユーロ（6億円）が投資され、うち60万ユーロ（6600万円）は州からの補助金。将来的には145メートルの高さも可能だという。同社は2013年には10基製造し2014年から量産に入りたいとしている。ドイツでは現在約2万3000基の風車があり、2012年前半期は全電力の9%をまかなった。

ドイツで子育て



ドイツ語と日本語は音の出し方が違い、例えば「R」「Sch」など日本語にない発音もあります。明はいくつか発音がはっきりしないと幼稚園でいわれ、週に一度言語療法士のところに通うことになりました。遊びながら35分間、正しい発音を学びます。

最初の面談で、療法士は明を見る前から「ドイツ語、日本語、ギリシア語の三ヶ国語教育は子どもの負担になる。ドイツ語だけにしなさい」と言いました。親が自分の母国語で話しかけるのが最良ときいていただけにびっくり。しかし明をテストすると、発音の逸脱は最小限で、ドイツ語の文章の反復は6歳児並にできるとのこと。「3ヶ国語でうまくいっている例は少ないが、この子は言語能力があるから大丈夫」とお墨付きをもらい、ほっとしました。

聴くだけで自然に習得できるのは、子ども時代だけ。ゲームをして遊び、最後にお菓子をもらえるとあって、明はうきうきと通っています。